

# 定期作況報告

(第5号 平成20年9月20日現在)

北海道立上川農業試験場

## 1. 気象概況

8月下旬：最高気温は平年より2.4 低く、最低気温も平年より1.7 低かった。降水量は平年より31.6mm 少なく、平年対比44%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より1.9時間少なく、平年対比96%であった。夏日(最高気温25 以上)は3日間、真夏日(最高気温30 以上)はなかった。

9月上旬：最高気温は平年より3.5 高く、最低気温も平年より2.0 高かった。降水量は平年より12.6mm 少なく、平年対比79%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より18.5時間多く、平年対比139%であった。夏日は8日間、真夏日はなかった。

9月中旬：最高気温は平年より3.1 高く、最低気温は平年より1.6 低かった。降水量は平年より51.2mm 少なく、平年対比6%であった。降水日数は平年より4日少なかった。日照時間は平年より31.9時間多く、平年対比171%であった。夏日は3日間、真夏日はなかった。

8月下旬から9月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温( )	22.6	25.0	2.4	27.0	23.5	3.5	24.4	21.3	3.1	24.7	23.3	1.4
最低気温( )	13.6	15.3	1.7	15.5	13.5	2.0	9.6	11.2	1.6	12.9	13.3	0.4
平均気温( )	17.6	19.8	2.2	20.6	18.1	2.5	16.6	16.1	0.5	18.3	18.0	0.3
降水量(mm)	25.0	56.6	31.6	46.5	59.1	12.6	3.0	54.2	51.2	74.5	169.9	95.4
降水日数(日)	4	5	1	4	5	1	1	5	4	9	15	6
日照時間(hr)	46.1	48.0	1.9	66.5	48.0	18.5	77.1	45.2	31.9	189.7	141.2	48.5

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10カ年の平均値。

3) 印は平年に比べて減を示す。

## 2. 作 況

### 1) 水 稲 : やや良

事 由： 8 月下旬の低温により成熟期は出穂期よりも平年に比べさらに遅れ、「ほしのゆめ」「ななつぼし」が 8 日遅れ、「きらら 397」は現時点で成熟期に達していない。登熟日数は「ほしのゆめ」「ななつぼし」が平年より 4 日多かった。

m<sup>2</sup>当たり穂数は中苗が平年より多く、成苗は平年並からやや多かった。一穂粒数(暫定値)は「ななつぼし」が平年の 92 % で少なかったものの、それ以外は 105 ~ 113 % で多かった。その結果、m<sup>2</sup>当たり粒数 (m<sup>2</sup>当たり穂数 × 一穂粒数、暫定値) も「ななつぼし」が平年の 97 % に留まったものの、それ以外は 106 ~ 124 % で多かった。

稔実歩合は「きらら 397」が平年に比べ 3 ポイント程度低く、「ほしのゆめ」はほぼ平年並、「ななつぼし」は平年に比べ 4 ポイント高かった。m<sup>2</sup>当たり稔実粒数 (m<sup>2</sup>当たり粒数 × 稔実歩合、暫定値) はいずれの品種も平年を上回り、平年対比で 102 ~ 120 % であった。登熟の進度は平年に比べやや遅れ気味に推移した。

以上、登熟がやや緩慢で、成熟期が平年よりも遅くなっているものの、稔実粒数が多く平年より収量増となることが予想される。目下の作況は「やや良」である。

表 2 生育期節

品 種 苗	成熟期 (月・日)			登熟日数 (日)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら 397 中苗	9.16			51		
ほしのゆめ 成苗	9.14	9.6	8	49	45	4
きらら 397 成苗	9.12			49		
ななつぼし 成苗	9.18	9.10	8	52	48	4

注1) 平年値は平成13～19年7カ年のうち平成13年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「遅」(成熟期)または「多」(登熟日数)を示す。

表3 収量構成要素および稔実歩合

品 種 苗	m <sup>2</sup> 当り穂数(本)				一穂粒数(粒)				m <sup>2</sup> 当り粒数(×1000粒)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら 397 中苗	790	723	67	109	(49.6)	43.9	5.7	113	(39.2)	31.7	7.5	124
ほしのゆめ 成苗	758	755	3	100	(44.6)	42.4	2.2	105	(33.8)	32.0	1.8	106
きらら397 成苗	739	714	25	104	(44.9)	42.4	2.5	106	(33.2)	30.3	2.9	110
ななつぼし 成苗	712	678	34	105	(46.8)	50.6	3.8	92	(33.3)	34.3	1.0	97
品 種 苗	稔実歩合(%)				m <sup>2</sup> 当稔実粒数(×1000粒)							
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)				
きらら 397 中苗	89.5	92.3	2.8	97	(35.1)	29.3	5.8	120				
ほしのゆめ 成苗	93.8	92.3	1.5	102	(31.7)	29.5	2.2	107				
きらら397 成苗	89.2	91.8	2.6	97	(29.6)	27.8	1.8	106				
ななつぼし 成苗	95.7	91.4	4.3	105	(31.9)	31.4	0.5	102				

注1) 平年値は平成13～19年7カ年のうち平成13年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 印は平年に比べて「減」を示す。

3) 一穂粒数の平年値は、登熟調査および不稔調査を行った計12株の平均値を用いているが、本年は現時点で2株が未調査であるため10株の平均を用いた暫定値である。そのため、本年のm<sup>2</sup>当たり粒数およびm<sup>2</sup>当たり稔実粒数の値も暫定値である。

表4 出穂後経時登熟歩合

品 種 苗	出穂後20日目			出穂後30日目			出穂後40日目		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
きらら 397 中苗	1.3	14.4	13.1	29.1	51.7	22.6	64.9	(75.6)	-
ほしのゆめ 成苗	2.5	13.8	11.3	44.6	55.6	11.0	77.2	(80.2)	-
きらら397 成苗	9.4	13.4	4.0	36.4	53.9	17.5	69.4	(76.7)	
ななつぼし 成苗	12.1	13.3	1.2	48.3	51.4	3.1	80.5	(77.2)	

注1) 平年値は平成13～19年7カ年のうち平成13年(最豊年)、平成15年(最凶年)を除いた5カ年の平均を用いた。

2) 出穂後40日目の平年値は平成16年のデータが欠測のため4カ年のみのデータから平均を算出しており参考扱いとする。

3) 登熟歩合は比重1.06の塩水選で求めた。

4) 印は平年に比べて「減」を示す。

2) 秋まき小麦： 平年より2日遅い9月10日に播種を行った。出芽期は9月17日で平年より2日遅い。

3) 大豆： やや良

事由： 全面的に倒伏しているが、腐敗や着莢不良はほとんどみられない。平年より遅れるが間もなく成熟期になると考えられる。主茎長は平年より長く、主茎節数がほぼ平年並みで徒長気味の生育ではあるが、分枝数、着莢数はともに平年並みか、やや多い。

したがって、目下の作況はやや良である。

表5 9月20日の大豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)		
	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	-	9.27	-
トヨコマチ	-	9.20	-
ユキホマレ	-	9.20	-

品 種 名	主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	68.9	58.4	10.5	10.3	9.9	0.4	8.7	6.9	1.8
トヨコマチ	73.4	61.3	12.1	10.8	10.8	0	8.4	6.6	1.8
ユキホマレ	74.6	62.6	12.0	10.6	10.7	0.1	6.2	6.1	0.1

品 種 名	着 莢 数 (個/株)		
	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	83	72	11
トヨコマチ	80	71	9
ユキホマレ	79	79	0

注1) 平年値は前7か年中、平成14年、18年を除く5か年の平均値。

2) は平年より減を示す。

4) 小豆 : 平年並

事由：成熟期は平年並であった。主茎長は、「エリモショウズ」で平年並、「しゅまり」で平年よりやや長い。分枝数はやや少ない。しかし、登熟期間が冷涼かつ多照に推移したため、粒大は優ると考えられ、予備的に脱穀調査した結果では、百粒重は平年を上回っている。

したがって、目下の作況は平年並である。

表6 成熟期の小豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			分 枝 数 (本/株)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
エリモショウズ	9.6	9.6	0	60	62	2	3.3	4.8	1.5
しゅまり	9.6	9.7	1	68	63	5	3.6	5.1	1.5

品 種 名	着 莢 数 (個/株)		
	本 年	平 年	比 較
エリモショウズ	49	54	5
しゅまり	45	51	6

注1) 平年値は、前7か年中、平成15年、平成16年を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を、 は平年より減を示す。

5) ばれいしょ : 平年並

事由：枯凋期は平年より7日早い8月24日であった。株当たり上いも数は平年並、上いも平均一個重は平年よりやや軽く、上いも収量および中以上いも収量は平年を下回った。しかし、本年の規格内収量は、参考値ではあるが平成14～19年の平均規格内収量と同等であった。また、でん粉価は平年より2.0%高かった。

したがって、目下の作況は平年並である。

表7 9月20日のばれいしょの生育

品種名	枯凋期(月日)			上いも数(個/株)			上いも平均一個重(g)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	8.24	8.31	7	12.3	12.1	0.2	89	95	6

品種名	上いも収量(kg/10a)			中以上いも収量(kg/10a)			規格内収量(kg/10a)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
男爵いも	4843	5070	227	4083	4341	258	4007	4010	3

品種名	でんぷん価(%)			収量平年比(%)		
	本年	平年	比較	上いも	中以上	規格内
男爵いも	16.4	14.4	2.0	96	94	100

注1) 平年値は、前7か年中平成16、19年を除く5か年の平均値。

2) は平年より早を、は平年より減を示す。

3) 規格内収量は、生食用規格内(M～2L, 60～260g/個)の収量で、平年値は平成14～19年の6か年平均であり参考値である。